

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	教育学概論		
担当者(Instructors)	丹下 悠史	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)			
教育に関する基礎的な概念、子ども、家族、教師といった教育の主要構成要素を理解し、日本および諸外国の学校教育の歴史をその思想的背景と共に考察することを通して、教師として教育活動に従事する上で必要な教育学の基礎を学ぶ。以上の内容を講義形式で行う。			

■授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	講義形式で行う。授業の内容に応じて、ディスカッションおよびグループワークを取り入れる。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	本授業の概要、教育学の基本的諸概念：教育の本質と目標	本講義を受講する上でのルールを確認する。教育、形成、発達、学習といった教育学における基本的な概念の意味を理解する。	<input type="checkbox"/>
第2回	学校・教師・家庭と子どもの成長・発達の関係	子どもの成長・発達に関する理論を知り、その主要な環境である学校・家庭の影響を考察する。	<input type="checkbox"/>
第3回	子どもと教育の歴史（1）：学校の誕生と学校教育の諸要素	近代学校の誕生の背景・展開を知り、現代の学校教育との共通点/相違点を考察することで、学校教育の特質を問い直す。	<input type="checkbox"/>
第4回	子どもと教育の歴史（2）：家族と社会による子どもの教育	家族や地域社会およびそれらが教育に与える影響の変遷を学ぶ。	<input type="checkbox"/>
第5回	子どもと教育の歴史（3）：現代社会における教育課題	現代社会における子どもを取り巻く環境・子どもの生活の変化を理解し、教育の課題を考察する。	<input type="checkbox"/>
第6回	近代の代表的教育家の思想（1）：コメニウスの教育思想：近代学校の構想	コメニウスの教育思想を確認し、彼による近代学校の構想の歴史的意義を理解する。	<input type="checkbox"/>
第7回	近代の代表的教育家の思想（2）：ルソーの教育思想：家庭で子どもをどう育てるか	ルソーの教育思想を確認し、自らが持つ子どもの教育観を問い直す。	<input type="checkbox"/>
第8回	近代教育制度の成立と展開	ヨーロッパおよび日本における近代学校制度の成立過程を確認し、これまでに学んだ教育者や思想家の担った歴史的意義を考察する。	<input type="checkbox"/>
第9回	近代の代表的教育家の思想（3）：ヘルバルトの教育思想：教授・学習の理論知	ヘルバルトの教育思想を確認し、教授・学習を理論的にとらえることの意義や限界を考察する。	<input type="checkbox"/>
第10回	近代の代表的教育家の思想（4）：デューイの教育思想	デューイの教育思想を確認し、人間の経験と学習が有する意味への理解を深める。	<input type="checkbox"/>
第11回	日本の教育制度の展開（1）：明治期・大正期・戦時期の教育	明治期から戦時期までの日本の教育の歴史を振り返り、社会における教育の役割を考察する	<input type="checkbox"/>
第12回	日本の教育制度の展開（2）：戦後教育改革から1970年代まで	戦後教育改革から1970年代までの日本の教育の歴史を振り返り、教育政策の理念的背景を考察する。	<input type="checkbox"/>
第13回	日本の教育制度の展開（3）：1980年代以降の教育	1980年代以降の教育改革のテーマとその特質を理解し、現代の日本が抱える教育課題を考察する。	<input type="checkbox"/>
第14回	教育の現代的課題	教育をめぐる国内外の今日的な課題について考察する。	<input type="checkbox"/>
第15回	本授業のまとめ	これまでの学習内容を振り返り、教育に関する理念、思想、歴史について理解できているかを確認する。	<input type="checkbox"/>

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)	
事前学習として、テキストまたは参考図書から次回の講義内容に関連する箇所を指定し、当日までに2時間程度の学習（読解・要約）を課す。	

事後学習として、講義の終わりに提示した課題に対し、授業内容およびテキスト、参考図書を参照して2時間程度で自分なりの解答をまとめることを課す。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

授業内課題は採点して返却し、次回の授業に解答例と解説を示す。期末の筆記試験は、実施後、LMSに解答例と解説を示す。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019人間健康DP1	1. 教育観や子ども観の歴史的な変容を説明できる。 2. 代表的な教育思想家の思想や理念及びその歴史的意義を説明できる。 3. 現代社会における教育の特質を歴史的・教育学的視点から分析し、その意義や課題について自分の考えを、教育を成り立たせる諸要因と、その相互関係を含め発表できる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
30%				70%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業の各回に課す課題 (5点×14回 (第1回～第14回)、合計70点)

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	木村元・小玉重夫・船橋一男著『教育学をつかむ』有斐閣	
2	今井康雄編『教育思想史』有斐閣	
3		
4		
5		